

道泉・本山 適正規模・適正配置 アンケート結果(回答者別)より 回答者(%) 69.8

		全体比率	未就学保護者	小学生保護者	中学生保護者	地域の方
小中一貫建設に	反対	44.6	38.0	43.4	50.0	45.1
	賛成	24.8	42.4	38.1	30.9	20.6
	どちらでも良い	27.9	16.3	16.8	19.1	31.3
	無回答	2.8	3.3	1.8	0.0	3.1
建設予定地	反対	62.6	67.4	70.8	67.6	60.6
	賛成	22.2	21.7	17.7	26.5	22.5
	無回答	14.3	10.9	11.5	5.9	15.8

7校統廃合による小中一貫校の東公園新設計画には絶対反対！道泉小学校、本山中学校の小中一貫校に対しては決して反対するものではなく、現状、即ち児童・生徒数及び両校が隣接することからすれば、寧ろ統合せざるを得ないかとも思う。9年間教育にすれば、これ迄にないカリキュラムを組むことも可能で、転校生受け入れ時の問題や私立中学希望生のこと等、色々と解決すべき難問は山積するも、これからの中等教育のあるべき姿かとも思う。しかしながら現在示されている統廃合計画は、聞くところによれば国からのモデル地区指定による、最初から『7校統廃合ありき』の、地域住民の意向を全く無視した、「詭弁のかたまり」の様な一方的な説明書、説明会で合意形成を図ろうとするものである。「数合わせ」による「適正規模」のみを追求した計画であり、「適正配置」ではなく、正に『不適切配置計画』と言わざるを得ない。

それに引き替え、中心市街地の道泉、深川連区は、現在でこそ子供はないが、現在住んでいる高齢者亡き後は、その孫が住む様になり、あるいは子孫が住まなければ売却され、交通の便が良い所が多い為に新しい住民が住む様になり、必ずや子供も増加する様になると思われる。中心市街地でありながら義務教育の公立小中学校が無く、私立ならともかく、バス通学で数キロの学校に通わなければならぬような瀬戸市が、魅力ある町といえるか？

7 校統廃合は有識者の答申かも知れない。しかし地域の実情を充分認識していない学者の意見は、参考として取り入れるべきものは取り入れても、やはり地域住民の意見も尊重すべきであり「市井に埋もれた住民の貴重な意見」を発掘する努力が全く見受けられない。小中学校の適正規模、適正配置の問題は、教育問題ではあるがひたすら教育関係者、教育専門者のみによる議論でなく、瀬戸市の産業界、とりわけ地場産業である陶磁器産業の実情に精通した者等も含めて、老人福祉、人口問題、労働問題等々であらゆる角度から将来を見すえて、総合的に議論し、判断すべき問題であろうと思う。そうしないと必ずや近い将来に禍根を残すことになるであろう。

今からでも遅くない。声を大にして、是非とも市中心街地の、伝統ある道泉小学校、本山中学校を存続させようではありませんか。（地域の方）

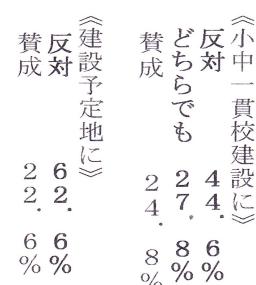
地域の小中学校が無いという事は、町の未来に大きくかかわります。私も自身近くに小学校があることが、大きなポイントでこの地域に越してきました。よって若いファミリー層の転入は、難しくなります。

反対です。小規模の学校でも良い所は、たくさんあります。2中学・5小学校くくりが大きすぎませんか？ほかの選択の余地も与えず一方的に市は、校舎の老朽化、クラス替えもできない、部活もできないといいます。確かに子供たちは成長していく段階でいろいろな経験も必要でしょうが地域で見守り、地域と触れ合い、思いやる心を育てることも必要なことではないでしょうか？もしもこのまま統廃合となつた場合の跡地利用について瀬戸市は、学校は、残すといつていますが、具体案について示していません

ん。議事録の公開を得てからと言われましたが翌日の新聞の掲載は何でしょう！文科省からの補助金のもとに計画が進められているように思われます。実績作りだけの説明会ではなく地域の声、地域の思いも聞いてください！！。（地域の方）

**瀬戸市は地域住民
市民の声を聞け！**

道泉・本山地区では、「適正規模・適正配置」について、独自に住民にアンケートを取りました。結果は、左記の表のとおりです。



「実績作りだけの説明会ではなく地域の声、地域の思いも聞いてください！」

小中一貫校建設、建設予定地に関して反対が賛成を大きく上回っています。

小中一貫校白紙に！ 瀬戸の教育・まちづくりについて市民合意を！

市内中心部と東部で計画が進められている小中一貫校構想は該当地域内で反対や慎重にとの声が高まっています。特に道泉地域では議会へ請願書を提出する動きもあります。いつたん白紙に戻し、小中一貫教育はどうしても必要なのか市民の総意を問うべきです。現状の施設建設ありきの基

本構想ではなく、そもそも小中一貫教育とは？瀬戸の教育行政・各学校の教育実践の総括をする中で、課題と方針が明らかになります。

教育労働者や教職員組合の役割はとても重要です。行政お任せの立場でなく、積極的に地域に入り、住民・市民とともに大いに論議を起こしていくことが大事です。



■平成34年度と28年度の比較でみると・・・

開校を予定している小中一貫校について

～瀬戸らしい教育の創造～

瀬戸市・瀬戸市教育委員会のパンフレットより

小学校児童数 平成34年度 P3 (平成34年度 / 平成28年度)

西陵(676/728)、幡山西(580/572)、效範(537/556)、幡山東(506/466)、長根(489/481)、陶原町(472/626)、東山(465/828)、水野(422/408)、下品野(380/455)、水南(371/551)、原山(214/253)、八幡(192/255)、道泉(188/208)、東明(148/100)、萩山(110/128)、祖母懐(96/128)、品野台(82/80)、古瀬戸(77/92)、深川(60/56)、掛川(15/32)

中学校生徒数 平成34年度 P4

南山(908/985)、水無瀬(635/633)、水野(575/487)、幡山(527/581)、品野(273/247)、祖東(163/174)、光陵(144/281)、本山(100/104)

平成34年度人数増の学校

小学校：幡山西(+8)・幡山東(+40)・長根(+8)・
水野(+14)・東明(+48)・品野台(+2)・
深川(+4)

中学校：水無瀬(+2)・水野(+88)・品野(+26)

識しか口なメは
のよらはい！大少
中うず減でジ幅子
に。間少しがに高
そし題しよ頭減齡
それかを、うに少化
をし起社かこすで
過こ会。びる瀬戸市
大私し全確り
にたて体か付そ市
受ちいににいんの
けのく少、てな人
止意でな人いイロ

シリーズ2

児童生
減徒数は
どれだけ

が教進て校・0も
いめで育みいが光人3
ででいよる部分。
市でてしいる部
き環、ま1陵減6
る境かす0中。3
でのえ。0へ陶原
し整つ大名1減
よ備て規以3小
う。をき模上7(1
進め校の人5水
め細の減減4南
るや解と4人東
こか消なの減1
とながつ4山トを
8小を

な入り07れ育ス
いれ、「人々で効」
でな行を減い果が小
しけ政超とまが世
よればえはす高界の
うばこるい。まる
かなこマえ南の流
らにン、山とれ「小
なこモな中のであ
いそスお学検あり
のメ校も校証りな
でスで9はが、ク
はをあ07さ教ラ

子どもたちにより良い教育
環境を！

瀬戸市立小学校適正規模配置 答申《概要》(平成14年7月)
具体的方策を検討するための基準
1. 1学年の適正な規模は、2学級から3学級とする。
2. 適正な通学距離は、概ね2Km以内とする。

「小さな学校」「小さなクラス」に！

適正規模をいうなら、 まず、マンモス校の解消を！

子どもにとって最善の環境を考えた場合、学級の定数を少人数に！

1学級35人、40人の枠を20人にしたらどうなるか？
1学年 2学級の場合 最多 20人×2学級×6学年=240人
最少 21人× 6学年=126人

と、なります。低学年ほど少人数の実施が望まれます。学級定数の基準を下げれば、100名規模の学校が実現します。「適正」をいうなら、弊害の大きいマンモス校の解消を先に行うべきです。

教育委員会が強行に進めている「適正規模」「小中一貫」は、子どもの権利条約の立場（子どもにとって最善の環境）ではなく、教育予算の削減と競争主義による何ものでもありません。

資料

瀬戸市立小学校適正規模配置 答申《概要》(平成14年7月)

具体的方策を検討するための基準

- 1学年の適正な規模は、2学級から3学級とする。
- 適正な通学距離は、概ね2Km以内とする。

学校統廃合・小中一貫教育を考える

日時：12月18日(日)14時～16時
場所：文化センター3階和室

講師 中嶋哲彦名古屋大学大学院教授

演題 「学校は地域の宝」
～学校統廃合・小中一貫教育は、
子どもにとって本当にいいの？～

瀬戸市は祖東中学区・本山中学区の2中学校と5小学校を1つにしようと計画を進めています。しかし、様々な問題が・・・。ご一緒に学び合いましょう。



10.19行動

日時：10月19日(水)
15:30～16:30

場所：パロー前

参加者約40名。

スピーチ、短歌、歌、スタンディング、署名等で「9条壊すな!」「安倍政治をゆるさない」「高江にヘリパッドはいらない」などと、市民にアピールしました。